

坂井市で中小企業振興計画を、勝山市では病院の地域支援とかつやま恐竜の森を視察しました。

平成 2 8 年 度
加 東 市 議 会
産業厚生常任委員会
政 務 調 査
福井県坂井市・勝山市

H28.8.17（水）～8.18（木）

「平成 28 年度政務調査」に参加した所感（坂井市）

加東市議会議員 小 川 忠 市

日 時	平成 28 年 8 月 17 日（水）午後 2 時～午後 4 時
視 察 地	福井県坂井市
調 査 事 項	中小企業振興計画について
視 察 先 及 び 調 査 内 容 の 概 要	坂井市は加東市と同様平成 18 年 3 月 20 日に旧坂井郡 4 町が合併して誕生した。面積 209.67 k m²、人口 92,761 人（平成 28 年 4 月 1 日現在）である。 【参考：加東市＝157.5 k m²、人口＝40,044 人（平成 28 年 7 月 20 日現在）】 【坂井市中小企業振興計画の概要】 坂井市は、平成 25 年 10 月 1 日、市内中小企業の支援を目的に「坂井市中小企業振興基本条例」を制定した。この振興計画は、この基本条例に基づき各種の支援策を総合的かつ計画的に実施するための実行計画である。 期間は平成 27 年度から 10 年間とし概ね 3 年間をめどに検証と評価を行う。 計画の策定にあたっては、「坂井市の現状や課題に対応する」といった観点で、市内中小企業者にアンケートを実施し、その回答を支援策の検討の参考とした。 制定から 3 年が経過しようとしているが、その成果としては、「産・学・官・金」の強いネットワークが構築された。また、従来は、商業組合や商工団体といった組織に対する支援が市の施策のメインであったが、基本条例や振興計画策定を経て、頑張る一企業を積極的に支援できる枠組みを設けることができた。また、「坂井市中小企業振興条例検討委員会」を設置して 5 回の会合を持ち様々な意見を取り入れながら条例制定となった。また、議会においても都市活性化委員会が先進地へ行政視察を行うなど積極的に関与した。
所 感	人口減少に伴う地域活力の低下が懸念される中、活力にあふれた地方の創生を目指すことが急務の課題である。このような状況の中、地域社会の活力と雇用を支える中小企業が果たす役割は大きく、中小企業の自助努力と、小規模企業者を社会全体で育て、支援していくことが重要となっている。（坂井市資料より抜粋） 加東市においても、坂井市と同様に中小企業支援策は必要であり、既存の支援策に加えさらにきめ細やかな支援策、施策が必要であると感じた。それには、坂井市が行った市内中小企業者にアンケートを実施し加東市の実態と課題の把握を行うことがまず第一歩と感じた。加東市でも「加東市中小企業振興条例」の制定を進め、それに基づく振興実施計画も策定を検討すべきと感じた。また、企業誘致制度についても、坂井市が実施している例を参考にしながらきめ細かいメニューの制度設計を行うべきと感じた。 所管の委員会として今後も研究していきたい。 http://www.city.fukui-sakai.lg.jp/kanko/jigyosha/shokogyo/shinko/chusho-shin-ko-keikaku.html

「平成 28 年度政務調査」に参加した所感（勝山市①）

日 時	平成 28 年 8 月 18 日（木）午前 9 時 30 分～午前 11 時
視 察 地	福井県勝山市
調 査 事 項	福井勝山総合病院の存続支援について
視察先及び調査内容の概要	勝山市は福井県東北部に位置し、昭和 29 年に 1 町 8 箇村が合併して誕生した。面積 253.88 k m²、人口 24,322 人（平成 28 年 5 月末日現在）である。 【福井勝山総合病院の公的存続に向けての取組みの概要やその背景】 健康保険・厚生年金財源の逼迫問題や社会保険庁解体等の影響により、平成 20 年に独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構（RF0）に出資され、厚生年金病院や船員保険病院と共に運営母体が不安定な状況下に置かれてきた。しかし近年、地域医療崩壊危機が社会問題視され、公的病院として永らく地域医療に貢献してきたこれら 3 病院グループを、地域医療機能推進のために 1 つの公的病院グループとして存続させる方針が打ち出され、平成 26 年 4 月から RF0 を改組した「独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）」がスタートした。 （※JCHO は、全国 57 病院グループ（47 旧社会保険病院、7 旧厚生年金病院、3 旧船員保険病院）を統括運営している。） 当院の歴史は、昭和 33 年に社団法人全国社会保険協会連合会（全社連）に経営委託され、「社会保険勝山病院」と名称変更し、更に平成 11 年 5 月に「福井社会保険病院」になり、平成 26 年 3 月 31 日まで奥越唯一の公的中核病院として奥越の地域医療を支えてきた。平成 26 年 4 月 1 日より、社団法人全国社会保険協会連合会が運営委託を受けていた公設民営の「福井社会保険病院」から、新設の独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が直接運営する公設公営の「JCHO 福井勝山総合病院」となった。 当院は奥越唯一の公的中核病院で、13 診療科を標榜する 199 床の小中規模急性期病院でありながら、附属の健康管理センター、介護老人保健施設（100 床）、訪問看護ステーション、居宅介護支援センター、人工透析センター（18 床）等を併設しており、疾病予防から急性期医療、回復期リハビリ（回復期リハビリ病棟 40 床）、介護・在宅医療まで切れ目のないサービス提供を行っている。 【勝山市や関係機関の支援取り組み状況】（抜粋） ・平成 14 年度 5 月＝国に対し公設民方式の存続及び病院の拡充、維持管理に必要な整備は国負担で行うよう要望書を提出。 ・平成 19 年度 2 月＝福井大学医学部産婦人科へ医療機器購入への支援として自治体から寄付ができるよう総務省へ要望書を提出。結果、平成 20 年に勝山市・大野市それぞれ 250 万円の計 500 万円を寄付する。

	3月＝妊産婦診療連携について奥越地域2市長（勝山市・大野市）が ①大学病院の役割、②福井社会保険病院産婦人科の役割、③自治体の役割 について強い支援を表明する。 4月＝出産支援体制に係る交通費助成事業の開始。福井社会保険病院で妊婦健診を受け県内医療機関で出産を予定している妊婦に対し、医療機関までの通院交通費を助成する。 ・平成20年度11月＝区長会が中心となり署名活動を行った「奥越地域の医療を確保するため地域拠点病院の継続を求める請願」を衆・参議長へ提出。 ・平成22年度8月＝大分県由布市など関係自治体と社会保険病院等存続法の早期成立についての要望書を厚労省や政党に提出。 ・平成24年度4月＝にこにこ妊婦奨励金制度の実施。県内医療機関で出産する方を対象に10万円を支給。 7月＝区長会が中心となり「奥越2次医療圏の存続を求める意見書・要望書」を福井県に、陳情書を県議会に提出。 その他、毎年、勝山市が市民や保育園連合会、医師会などなど関係諸団体を巻き込みながら講演会、フォーラムなどを共催という手法で開催し、市民運動的な病院存続活動をサポートした。
課題や所感	「JCHO 福井勝山総合病院」は、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）が直接運営する公設公営の病院であり、加東市民病院のように自治体が直接運営する病院ではない。従って、勝山市からの支援金は0円である。「経営には金も出さないし口も出さない」である。しかし、市内の医療機関で入院できる病院は2施設、診療所10施設となっており、地域唯一の中核病院である。また、冬季は豪雪のため大型病院がある福井市内への交通アクセスは厳しい状況にある。 このような状況から、病院存続のため市として市民に対し「市民のための病院である」という意識付けのため各種団体と共催という形で講演会や市民フォーラムを数多く開催してきた。 加東市民病院の経営状態は大変厳しい状況である。しかし、個人的には、地域の基幹病院として存続すべきと考えている。次年度からは、公営企業全部適用に移行し、経営改善を図る。ただ、加東市民の加東市民病院に対する意識や思いはどのようなのだろうか。まずは、市民フォーラムやアンケートなどを行い市民の意識調査を行うことが必要であろうと思う。それにより、病院存続など今後の市民病院のあり方の議論を展開すべきではないかと考える。 勝山市の病院存続に関するサポートは大いに参考になったが、「市として病院を買い取り直営として存続することは考えませんか？」と質問したら「全国の自治体病院の現状を見るとその方向性は全く持っていない。」と答えが返ってきた。

「平成 28 年度政務調査」に参加した所感（勝山市②）

日 時	平成 26 年 8 月 18 日（月） 午前 11 時～午後 3 時（昼食休憩あり）
視 察 地	福井県勝山市
調 査 事 項	かつやま恐竜の森について（現地調査含む）
視 察 先 及 び 調 査 内 容 の 概 要	昭和 63 年(1988)に、手取層群の 1 つ北谷町杉山で、1 億 2 千万年前の肉食恐竜の化石等が発見されて以来、この地域一帯は全国でも貴重な恐竜化石の宝庫としてクローズアップされている。平成 12 年に福井県立恐竜博物館が開館し、平成 18 年 6 月には入館 200 万人を達成、平成 19 年には、日本で初めて恐竜の皮膚痕化石が発見され話題となった。 施設の中には、福井県直営の「福井県立恐竜博物館」がある。 かつやま恐竜の森は、勝山市が「NPO 法人恐竜のまち勝山応援隊」に指定管理にて運営している。指定管理料は年間 3,000 万円との説明を受けた。その他自主事業にも取り組んでいる。今後の構想として、第 2 の博物館整備する方向であるが、まだ基本構想の段階のゼロベースだが、県とともにアミューズ性を重視した構想である。との説明を受けた。
課 題 や 所 感	まずは、福井県恐竜博物館の壮大さに驚いた。また、夏休みでもあり、入館者数の多さにも驚いた。それでも同僚の議員から聞く話によれば、当日はまだ少ない方でピーク時は駐車待ちが 2 時間ほどかかるようだ。 かつやま恐竜の森は、市の施設を指定管理制度で運営している。あの大規模で年間 3,000 万円は安いのではと感じたが、自主事業で売り上げがあり年間約 1 億円の収支で運営している。ただ、豪雪地域のため冬季は閉鎖しており、冬季の営業があればと感じた。 加東市には、このような施設に匹敵する施設がないため比較できないが、市内の観光施設においてもまだまだ集客する取り組みが必要である。議会としてもハード面、ソフト面など民間手法を大胆に取り入れ方法を研究していきたい。

「平成 28 年度政務調査」に参加した所感

平成 28 年 8 月 17 日～8 月 18 日(調査日)

加東市議会議員 岸本眞知子

1. 『中小企業振興計画』策定について(福井県坂井市人口 92,718 人(7 月末)、面積 209. 67k m)
目的；人口減少に伴う地域社会の活性化、地方創生を目指す役割に活力と雇用を支える
中小企業を社会全体で育て、支援をすることで地域経済の持続的な発展と地域活
力を創造するまちづくりの実現を目指す。

位置付け；上位計画「坂井市総合計画」(平成 20 年 3 月策定)とリンクしながら、中小企
業の支援を目的に制定した「中小企業振興基本条例」(平成 25 年 10 月 1 日制定)
に基づき、具体的に産業振興を図るための施策として「中小企業振興計画」(平成
27 年 3 月策定)に示す。

計画期間；平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間(概ね 3 年間を目途に検証と評価)
支援施策制度；

- ①制度融資利子補給事業(中小企業者等振興資金の融資を受け付けた方の利子を市
が一部負担)
- ②小規模事業者経営改善金利子補給事業(経営改善資金の融資を受けた小規模事業
者の金利を市が一部負担)
- ③企業キャリア支援事業(非正規雇用労働者を正規雇用に転換した場合や育児休業
者を現職に復帰させた事業所に対して支援)
- ④中小企業人材育成支援事業（従業員の方の資質向上のため、人材育成研修に係る
費用の一部を負担）
- ⑤中小企業振興支援事業(販路開拓やものづくりの推進に取り組む事業で、市が認め
た経費に対して費用の一部を負担)
- ⑥商店街等振興事業(商店街振興組合等が行う環境整備事業や活性化事業に要する
経費に対して費用の一部を負担)

取り組みの成果(坂井市のコメント)；坂井市中小企業振興条例制定に向けた検討委員会
を平成 25 年 1 月 29 日に設置、委員会を 5 回開催、10 月 1 日に制定。市議会で構
成された都市活性化委員会で先進地の滋賀県栗東市への行政視察等で条例制定へ
向けた動きが加速された。

県内で初ということもあり話題性に富み、一番の成果としては産学官金連携の強
いネットワークが構築できたこと。

私感；地方創生に向けた地域活性化の方策として、企業誘致や新規創業支援も必要とさ

れるが、地域にある資源を再認識し活性化することで息づく地域づくりが最短距離で可能になると考えられる。そのような中での坂井市の中小企業者向けの支援制度は恰好の取り組みであると捉える。地域の特性を活かし雇用を促進することで豊かな地域社会の実現に期待する。

2. 福井勝山総合病院への存続支援について(福井県勝山市人口 24,281 人(7 月末)面積 253.88k m)

沿革；・1946 年「健康保険勝山病院」として発足

・1999 年「福井社会保険病院」の名称で、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構(RFO)が委託する全国社会保険協会連合会が運営

・2014 年 4 月 1 日「福井勝山総合病院」と名称を改め、運営母体を独立行政法人地域医療推進機構^{ジェイコー}(JCHO)に移行

概要； 病床数 199 床(一般病床 158 床、回復期リハビリテーション病床 41 床)、常勤医師数 21 人、10 対 1 入院基本料

経営面；患者の受入数等の短期、長期目標を設定し、第三者機関から評価を受け一般公開も行う。

行政や医師会、病院利用者等で作る地域連絡協議会を設置し、情報提供や要望を聞く場を持つ。

私感；加東市も平成 28 年度で現行制度地方公営企業法一部適用から全部適用に移行すると公言されている。地方独立行政法人との比較も考慮の上、これからの病院運営に適した制度を選択し、必要不可欠な病院の在り方の見直しが必要。

3. かつやま恐竜の森について(福井県勝山市)

概要；・勝山市長尾山総合公園に、「福井県立恐竜博物館」と「公共施設かつやま恐竜の森」を設置(平成 12 年 7 月 14 日開館)

・平成 21 年 4 月 1 日から指定管理者制度を導入、公共施設かつやま恐竜の森は民間による施設管理運営となる。

・全国の恐竜化石の 80%以上が発掘される。

・設備投資 90 億、年間 8 億の経費(県立恐竜博物館)

・現在、入園者数年間 100 万人以上(国内外に発信)

・入場料 500 円～、駐車場無料

私感；「兵庫県立人と自然の博物館」が三田市にあるが、兵庫県も恐竜の宝庫で丹波や淡路でも化石が見つかっている。加東市に恐竜の化石は出ないのかと、欲が出る。

※坂井市・勝山市の担当職員の皆様には大変お世話になりました。御礼申し上げます。

「平成28年度政務調査」に参加した所感

加東市議会議員 二階一夫

今回の福井県への政務調査として、公費を
使った視察研修は、今後見直すべきである
理由

初日の福井県坂井市中小企業振興基本条例
(2日目の勝山市での病院及び福井県立恐竜
博物館の説明を受けたが、病院については民間
病院であり、加東市民病院は公立であり、意味の
ない研修であった。又恐竜博物館については
観光であった。今後は自己負担ですべきである

提出期限 平成28年9月1日(木)

書体等: 12ポイント(表題は14ポイント)、MS明朝体

※報告書は市議会ホームページに掲載します、なるべくデータで提出願います。

「平成28年度政務調査」に参加した所感

加東市議会議員 桑 村 繁 則

① 坂井市中小企業振興基本条例について、中小企業に関する「基本理念」を明らかにし「中小企業の振興に関する施策」「市の責務、中小企業者等の努力及び市民の理解と協力」等について具体的に示した条例であり、計画的に推進を図る点により本市経済の活性化と就業機会の増大が見込まれ、関係者の責務や役割を明確にし市民生活の向上と調和のとれた地域社会に寄与すると思われた。「市独自の支援策や「中小企業者等向け支援制度」等も充実していたと思われた。加東市も中小企業者等の共に商工会とも連携をとり検討しても良いと思った。

② 福井勝山総合病院については独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)に移行しての再スタートしていたが、病院自体の経営には市は1-7ツテであった為、余り参与にならなかった様に思った。

産業厚生常任委員会 視察レポート

藤尾潔

◎8月17日 福井県坂井市「中小企業振興基本計画」

福井県坂井市では、2008年のリーマン・ショック後の景気低迷、2010年の中小企業憲章の制定を受けて中小企業振興条例の策定に取り組んだ。策定にあたっては行政において委員会を設置し、産学官金の率直な意見交換のもと、条例の策定に取りくめたことが有意義であったということであった。

2013年10月より条例を施行、その後条例の「自主的な経営向上の努力を尊重し推進すること」「本市の地域特性を活かした施策により推進すること」「関係機関との緊密な連携と一体的な展開を図りながら推進すること」という3つの基本理念に基づき、具体的な施策の検討を行い、2015年3月に中小企業振興基本計画を策定した。中小企業振興支援事業などにおいては、新商品開発や販路開拓などについて、また、空き店舗の活用などについて予算の増額・新規事業の創設が行われている。

昨年度が計画取り組みの初年度ということもあり、利用率の低い事業もあり、成果についての判断もこれから という部分もあるように思われた。

加東市においては、企業誘致のための大規模事業者向け優遇策は多いが、中小企業向けの新規の施策展開が少ないように思われる。その背景を確立するためにも、中小企業振興条例の制定は有効であると考えられる。坂井市では当局による提案であったが、兵庫県議会では議員提案により策定されており、加東市においても議員提案になじむものと考えられ、産業厚生常任委員会で今後の調査検討を進めていくべきであると考えます。

◎8月18日 福井県勝山市「福井勝山総合病院への存続支援」

福井勝山総合病院は、社会保険病院として運営されてきたが、2014年度より国の合理化の方針により独立行政法人地域医療機能推進機構が運営することとなった。奥越地域の基幹病院として欠かせない病院であり、市としても産科診療が継続できるよう福井大学と連携して医師確保への協力を行った。

今回は市の病院への存続支援策の視察ということで、病院経営に直接関係する視察ではなかったものの、国民健康保険による人間ドック助成制度などにより、病院収益が間接的に上がる支援策を取っていることもあった。反面、市民病院ではないので市の施策との連携という観点では課題もあるように感じた。

◎8月18日 福井県勝山市「かつやま恐竜の森」

福井県勝山市では、恐竜化石の出土を契機に、福井県立恐竜博物館が設立されるなど、恐竜を活かしたまちづくりを進めている。博物館のある長尾山公園一帯を「かつやま恐竜の森」として整備を行っており、指定管理者が運営している。ディノパークの設立なども行っている。ただ、観光客の誘致のためには継続的な投資が欠かせず、駐車場の整備も継続的に必要となっている。インバウンドも視野に入れた観光行政であったが、容易なことではない。



1 「平成28年度政務調査」に参加した所感

加東市議会議員 小紫泰良

福井県坂井市

・中小企業振興計画について

坂井市は、平成25年10月1日、市内中小企業の支援を目的に「坂井市中小企業振興基本条例」を制定し、この条例に基づき各種支援策を総合的かつ計画的に地域経済の持続的な発展と地域活力を想像するまちづくりの実現を目指している。

期間は、平成27年度から平成36年度までの10年間で、概ね3年間をめぐりに検証と評価を行い、施策の着実な推進を図っている。

坂井市中小企業振興基本条例では、中小企業に関する「基本理念」を明らかにするとともに、「中小企業の振興に関する施策」、「市の責務、中小企業者等の努力及び市民の理解と協力」等について具体的に示してある。

中小企業の振興にあたっての3つの基本的な考え方としての基本理念は、

- ・中小企業者自らの創意工夫と自主的な経営向上の努力を尊重し推進すること
- ・市の地域特性を活かした施策により推進すること
- ・関係機関との緊密な連携と一体的な展開を図りながら推進すること

であり、

中小企業の振興にあたっての9つの柱の市の基本的な施策は、

- ・経営の革新や起業の促進
 - ・経営資源の強化
 - ・資金調達の円滑化
 - ・地域資源を活かした創造的な事業活動の促進
 - ・人材の育成及び雇用の促進
 - ・経済的、社会的環境変化への適応
 - ・教育・学術研究機関との連携強化
 - ・観光資源を活用した産業の促進
 - ・経営の多角化の促進
- である。

以上が明記されており、がんばる中小企業者を支援できる裏付けとなっている。

加東市も同様の「中小企業振興基本条例」を作ることにより、加東市に若い世代の中小企業者がもっと出てくる可能性があると思うとともに、元気な加東市になっていくと考える。

福井県勝山市

・福井勝山総合病院への存続支援について

福井勝山総合病院は、昭和21年に健康保険勝山病院として発足。平成11年からは福井社会保険病院の名称で、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理

機構（RFO）が委託する全国社会保険協会連合会が運営をしていた。

平成 26 年度からは、RFO から組織が変わった独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）に移行し、名称を「福井勝山総合病院」改め、再スタートし、奥越唯一の公的病院として地域医療の充実を図ろうとしている。

福井勝山総合病院の病床は 199 床、常勤医師数は 2.1 人でこれまでと同数で、産婦人科と眼科は非常勤で対応をしている。

勝山市からの病院への応援としては、平成 20 年度に 250 万円の応援をしているが、金銭の応援はこれだけである。これ以外には、勝山市を中心としての講演会の開催、「地域の医療を考えるフォーラム」の開催。医療の現状についての地区説明会。地域医療推進後援会の開催。「医療を考えるつどい」の開催。「出産連携支援講演会」の開催。地域医療の現状について市広報での PR。救急医療の現状について市広報での PR。医師派遣について県へ緊急要望活動。出産連携支援講演会の開催。区長会が中心となつての「地域拠点病院の継続を求める請願書」の署名活動、県への「2 次医療圏の存続を求める意見書・要望書」。県議会への「2 次医療圏の存続を求める陳情書」の提出。など、勝山市ならびに区長会として、広報活動はしっかりと行なわれている。この点では、広報活動は大切であり、住民の意識は向上していると考えられる。

しかしながら、運営組織が独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）であり、全国社会保険協会連合会系列の病院である。加東市民病院とは違い市民病院ではないため、赤字の出たときの補填方法も違うと推察される。

赤字運営になった場合には逆に、閉鎖の心配も大きいと思うが、地域の中では勝ち組の病院のようであり、加東市民病院を取り巻く環境（全国でも有数の市民病院の競合地帯。しかも、5 万人程度の自治体）が違っており、市の資金的な応援の方法は参考にならなかったが、フォーラム・講演会などの開催については、加東市民病院も非常に参考になった。

・かつやま恐竜の森について

かつやま恐竜の森は、平成 12 年に福井県勝山市に福井県立恐竜博物館として開館し、その後、貴重な動植物が生育する里山の豊かな自然環境を保全した中で、潜在的な地域資源である恐竜化石・遺跡・自然等のふれあいや、スポーツレクリエーションなど、様々な活動、交流を通して新たな時代への価値観を抱く「文化・交流拠点」としての「多機能型の都市公園」を目指している。その後、平成 21 年から指定管理者制度を導入して、民間の NPO 法人恐竜のまち勝山応援隊による施設管理運営を行っている。

施設としては、主たる施設として福井県立恐竜博物館と NPO 法人恐竜のま

ち勝山応援隊による春から秋開催のかつやまディノパークとなっており、春から秋開催のどきどき恐竜発掘ランドとバーベキューガーデン。冬開催のクロスカントリースキー&雪上ウォーキング。通年のレストハウス長尾山となっている。

福井県立恐竜博物館は、恐竜を主たるテーマとした自然史博物館で、展示内容の量・質共に極めて高く、日本における恐竜博物館の代表格となっている。

施設の利用者也年々増えており、平成 28 年度は平成 27 年度の 97 万人から 100 万人を超えるようである。また、福井県の観光戦略の中で、第 2 恐竜博物館も検討されている。

この施設は、県立の博物館と市の公園をミックスさせ、観光客を誘致しようとしており、官の運営に民の新しい試みを取り入れようとしている。

調査をさせて頂いたが、官と民の新しい試みは現在進行形であり、現在の状況をしっかりと受け止めた上で、あと 3 年後、5 年後あたりを目途に再度訪れてみたいと考える。とにかく、一生懸命に取り組んでおられるし、地域創生という角度からも素晴らしいと思うが、一生懸命に取り組めばすべてが成功するわけではない。ただ、地域的にもいろいろな観光資源があるので、うまくリンクさせ官民協働の良いモデルになっていただきたい。

「平成 28 年度政務調査」に参加した所感

加東市議会議員 石井 雅彦

産業厚生常任委員会視察

本年度から各常任委員会毎の視察となり、8 名の委員、議長、事務局職員で、下記の通り先進地の政務調査(行政視察)を行った。

- 日 時 平成 28 年 8 月 17 日(水)8:30～18 日(木)18:30
- 場 所 福井県坂井市(17 日)、勝山市(18 日)

○ 中小企業振興計画について(坂井市)

坂井市は福井県の北部に位置し、10 年前に 4 町が合併して出来た市で、人口は 93,000 人と県下第 2 の都市で、日本海に面したところには県内最大の工業団地をかかえており、その他にも商工業団地があり、3 年前に「中小企業振興基本条例」をいち早く制定されたが、そのために大学教授を委員長とする産学官金のメンバー構成による検討委員会を立ち上げ、5 回の委員会と市民へのパブリックコメントを募集して、市長に提言書を出された。昨年度から 10 年間の振興計画に基づいて計画策定の懇話会も設けられ、しっかりとした検証をしながら進められていることに、また、多岐にわたる支援制度を設けて坂井市の中小企業への支援を真剣に取り組んでいる様子が伺えた。特に非正規雇用労働者正規労働者に転換した事業所に一人当たり 10 万円の支給制度を設けるなどは特筆すべきことであると思う。加東市とは規模からは単純に比較はできないが、加東市でも同様のプロセスでの計画を考えていく必要があるのではないかと感じた。

○ 福井勝山総合病院への存続支援について(勝山市)

勝山市は福井県の東部に位置し、人口は 25,000 人足らずで 3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者が占める割合の多い市であり、これまで社会保険病院として公設民営方針で維持されていた病院が、保険財政の悪化や厳しい運営状況を背景に見直しが始まり、2 年前から独立行政法人として名称を変更して再スタートされた。その間に産婦人科の分娩が停止となり、困難もあったが医師の派遣を近隣の福井大学に要請して産婦人科の診療の回数を増やすことができたようである。今の課題は、透析の処置ができないとのことであるが、加東市のような市立病院ではないため、市からの支援も必要なく、うらやましい限りではあるが、

存廃の危機に直面した折は、存続に向けて区長会が主となって市民あげて地域の医療を守ってきた姿勢には、加東市民の病院に対する思いとの違いを感じさせられた。市民病院ではないが、地域の医療を自分たちで守るという気持ちが、全国でも 57 ある同じ形態の病院で半数近くは赤字なのに、この勝山の病院は、黒字という良好な経営状況を後押ししている気がする。

○『かつやま恐竜の森』について(勝山市)

全国で 8 割以上の恐竜化石が発掘されている当市の特徴を上手く活かして、また、福井県がそれに乗って施設内に県立恐竜博物館を建て、県とともに恐竜ブランドを売り出した羨ましいプロジェクトであり、実際は魅力的な素晴らしい施設だった。夏休み期間中だったとはいえ、これだけの入場者がある施設はめずらしく、恐竜といえば、この福井県(福井駅西口にも 3 体の動く恐竜があった)、勝山市だと知らない人も多いのではないだろうか。まだまだやりかたによっては、伸びる可能性があるようには感じた。冬場は降雪のため 3 ヶ月間程休業するようであるだけに難しい面もあるが、もう少し突っ込んだプロジェクトの内容を聞いてみたい気がした。

「平成 28 年度政務調査」参加した所感

加東市議会議員 高瀬 俊介

1. 日時：8 月 17 日（水）～18 日（木）
2. 場所：福井県坂井市、勝山市
3. 調査事項：（1）坂井市 ・ 中小企業振興計画について
（2）勝山市 ・ 福井勝山総合病院への存続支援について
・ かつやま恐竜の森について

（1）8 月 17 日午後、坂井市役所を訪問致しました。まずは、坂井市の概要説明を受け、その後調査目的である「中小企業振興計画について」担当部より、基本理念、条例制定の経緯等、内容を詳しく説明を受け、条例制定の経緯等、内容を詳しく説明を受け、その後各委員から当局に対する質問を行いました。私自身が感じた事は、当市と比べて支援制度のメニューが充実している事、国、県及び関係機関との連携が一体的に図られているなど感じたところであります。

（2）8 月 18 日午前中に勝山市役所を訪問、前日同様、勝山市の概要説明を受け、調査目的である福井勝山総合病院の存続支援についての経緯並びに内容について説明を受けました。当市民病院と基本的に違う点は、運営が「独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）」の一病院で有り、勝山市は、財政面においては一切支援していないが、市当局としては、存続させる為、あらゆる要望を国、県に働きかけているとの事でした。当市民病院とは比較できないが、しかしながら住民の病院に対する存続要望意識は非常に高く、ほとんどの住民が総合病院としての利用度も高く、現状は、黒字経営であると聞き、加東市とは病院に対する意識に少し温度差がある様に感じました。

2 点目の調査目的である「かつやま恐竜の森について」概要説明後、午後からは現地見学を行いました。私自身が感じたことは、訪問者数が開設当初と比較して、2 倍の年間 100 万人超に達している事、また指定管理制度で管理者が NPO 法人に任せている事、企画・アイデアが優れている事、県立恐竜博物館を核として運営されている事が財政面（収支）においても成果が出ているなど感じた所であります。

これをもって、政務調査に参加した所感を報告し、終わります。



産業厚生常任委員会

福井県坂井市・勝山市視察レポート

- ・ 中小企業振興計画について（坂井市）
- ・ 福井勝山総合病院への存続支援について（勝山市）
- ・ かつやま恐竜の森について（勝山市）

加東市議会議長 安田 朗

○ 中小企業振興計画についての概要・所感

坂井市は福井県の北部に位置し、平成18年に坂井郡の三国町、丸岡町、春江町、坂井町の4町が合併し、人口91,000の人の市として誕生した。全国的に有名な絶壁の海岸東尋坊もこの市である。

平成25年に市内の中小企業の支援を目的に、「坂井市中小企業 振興基本条例」を制定した。坂井市中小企業振興計画は、この条例を計画的に実施するための実行計画で、地域経済の持続的な発展と地域活力を創造するまちづくりの実現を目指すとした。この計画は、短期、中期、長期の3段階で構成し、社会経済の変化に柔軟に対応するため、概ね3か年をめぐりに検証と評価を行い、着実な推進を図ることとしている。

3つの基本的な考え方を示した【基本理念】、振興にあたっての9つの柱で示された【市の基本的な施策】、市の責務、市民の理解と協力などを示した【関係者の責務や役割】を条例に定め、福井県立大学地域経済研究所の教授や商工会会長、銀行の支店長など各分野の視点からなる懇話会をつくり、平成27年3月に中小企業振興計画を策定した。

■ 坂井市の中小企業者等向け支援制度

- ① 市制度融資利子補給事業
- ② 小規模事業者経営改善資金利子補給事業
- ③ 企業キャリア支援事業
- ④ 中小企業人材育成支援事業
- ⑤ 中小企業振興支援事業
- ⑥ 商店街等振興事業

上記の6つの支援制度があり、国の補助金や市独自の助成制度などを施行し、中小企業振興を図っている。

- ・ 坂井市に置いても今後割と緩やかではあるが人口減少が予想されている。その街の活力を示す大きな一つとなるのが人口動態であり、その中でも中心

をなすのが、生産年齢の構成であると思います。坂井市では市内の企業にアンケートを実施し、直接、企業の声を聞き、「人材確保・育成が難しい」、「融資制度の要件緩和、個人への支援がほしい」など、企業が今何を一番に苦しんでいるのかの把握に努め、有効に支援を行おうとしていることがよく理解でき、産学官金の連携もよくできていると思う。

加東市では今、商工会を通じて若い企業者を育成する「企業塾」を施行している。また、今年度の事業として、やしろB i O ショッピングパークの屋上でコンテナハウスを利用したチャレンジショップも予定されている。

こうした事業の展開が今後の加東市の活性化に繋がるものと思われる。坂井市の独自の支援事業なども参考に、加東市の中小企業の活性、充実に取り組んでいきたい。

○ 福井勝山総合病院の存続支援についての概要・所感

人口約2万3000人の勝山市は、石川県と県境する福井県の最北部に位置し、冬季には1メートルからの雪が積もる山間の風光明媚なまちである。

市の人口に対する高齢化率は33.3%と加東市より8%ほど高く、今後の緩やかな人口減少も予想されるところである。

福井社会保険病院として公設民営で開設され、現在は独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の1病院として公設公営で運営されている。

・まず、市行政、市民が病院の存続に立ち上がり運動を展開したのは、産婦人科の休診の危機を迎えたことがきっかけで始まった。区長会が中心となって、「奥越2次医療圏の存続を求める意見書・要望書」を県、国に提出され、安心して出産・育児できる環境の確立を求めた。

福井勝山総合病院は、勝山市の直営の病院ではないため、直接病院に公金を投入するような支援の在り方ではなく、シンポジウムの開催、市広報での病院のPR等で側面的なサポートがほとんどである。

加東市のような自治体直営での病院経営ではないため、赤字になった時に市が公金を投入し経営の安定を図るようなことはない。

まちの安全、安心を計るのにどこまでの公金を投入するのが適切なのか、病院のことは命に直結することが予想されるので、金銭のことではないと考えるべきことなのか私自身も含め、多くの住民の皆さんも悩ましいとされているのではないかと考えます。

加東市においては、近隣の状況などは勝山市とは少し差異があるが、病院を取り巻く環境自体はあまり変わらないものと思われます。当市でも区長会を中心に住民が望む病院の方向性が見いだせればと思うところです。

○ かつやま恐竜の森についての概要・所感

- ・ かつやま恐竜の森の視察は、地域の特性を生かす活性化事業の観点から、疲弊する中山間地のあり方を考えさせられた。

福井県勝山市は、全国の恐竜化石の8割以上が発掘されているところである。その立地を生かし、福井県が一体の公園の整備計画を施行し、県が運営する恐竜の館等の県の直営部門と、勝山市が指定管理等で運営する部門とに分かれて管理、運営している。

勝山市の年間の観光客が約200万人で、その約半数の100万人がこの施設を訪れている。勝山市の雇用、地域の活性化に大きく寄与し、市の行政運営にも大変重要な一つとなっている。

加東市に類似した施設や環境はないが、中山間地の活性化に取り組んでいかなければならないのは代わりない。まちの特性を生かした活性化の取り組みは、そのまちの人口動態、活力に大きく表れてくるものだと思います。

当市においても、一長一短にはいかないだろうが、強いまちの特性を見い出して、活力みちる明るいまちを願います。

